



住友金属鉱山株式会社 事業概要

- ・ 銘柄略称：住友鉱（東証1部）
- ・ 銘柄コード：5713
- ・ 単元株式数：100株



会社概要

資本金 **932**億円

創業 **1590**年

連結従業員数 **6,873**名

日本の上場企業で2番目に長い歴史

業績（2019年度実績）

売上高 **8,726**億円

税引前利益 **790**億円

当期利益 **606**億円

15か所の国及び地域
で事業展開

7つの鉱山を保有

10か所の製錬所を操業

時価総額 **9,684** 億円 （2020年9月1日時点）

住友金属鉱山の3つのコアビジネス



住友金属鉱山の歴史①

写真提供：住友史料館

製錬

1590年（天正18年）創業



1500年

1600年

1700年

1800年

1691年

資源

別子銅山の稼行開始

1973年の閉山まで
283年にわたり
住友の事業を支えた



住友金属鉱山の歴史②

1960年代～
国内鉱山閉山
経営多角化

材料

1900年

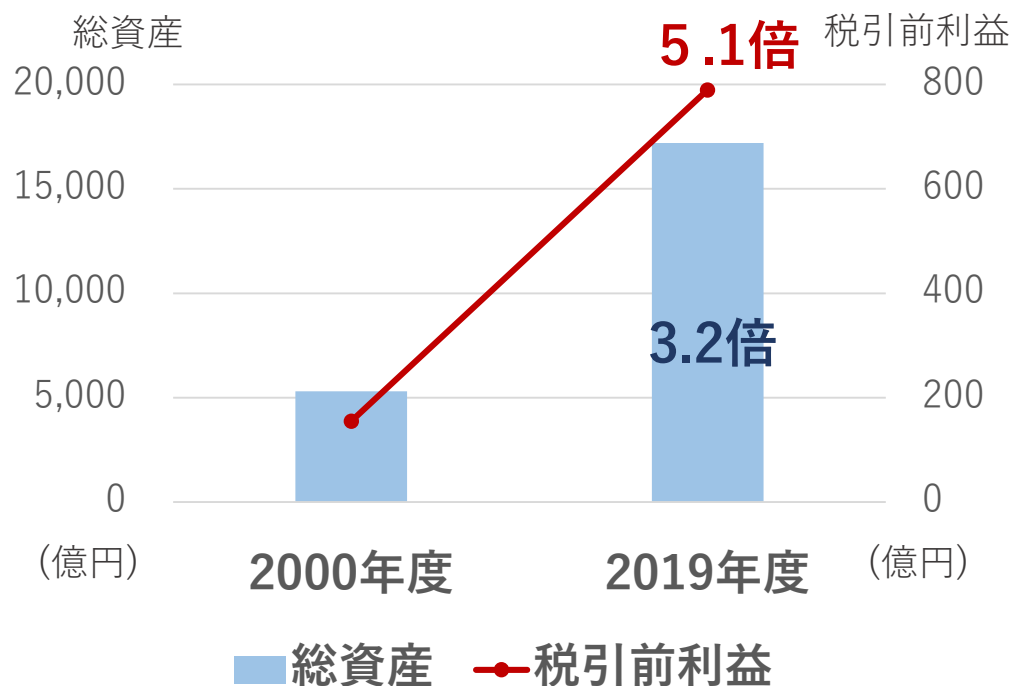
2000年～

1999年
JCO臨界事故

企業再生計画を
策定し再出発

本業回帰・成長戦略の推進

積極的な海外鉱山の権益取得
フィリピンでのニッケル製錬所建設
車載用電池正極材のリーディングカンパニーに



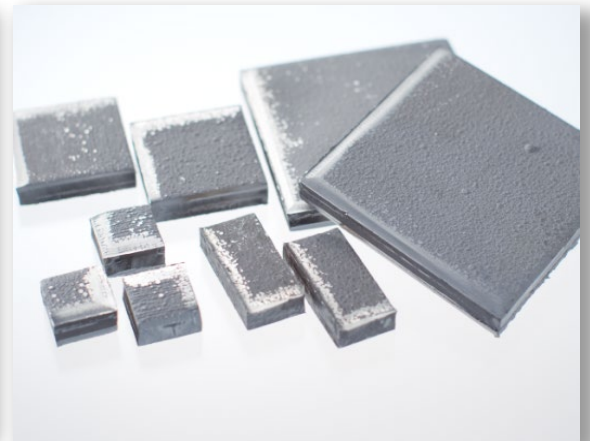
住友金属鉱山が生産する非鉄金属（メタル）



電気銅



金



電気ニッケル



硫酸ニッケル



電気コバルト

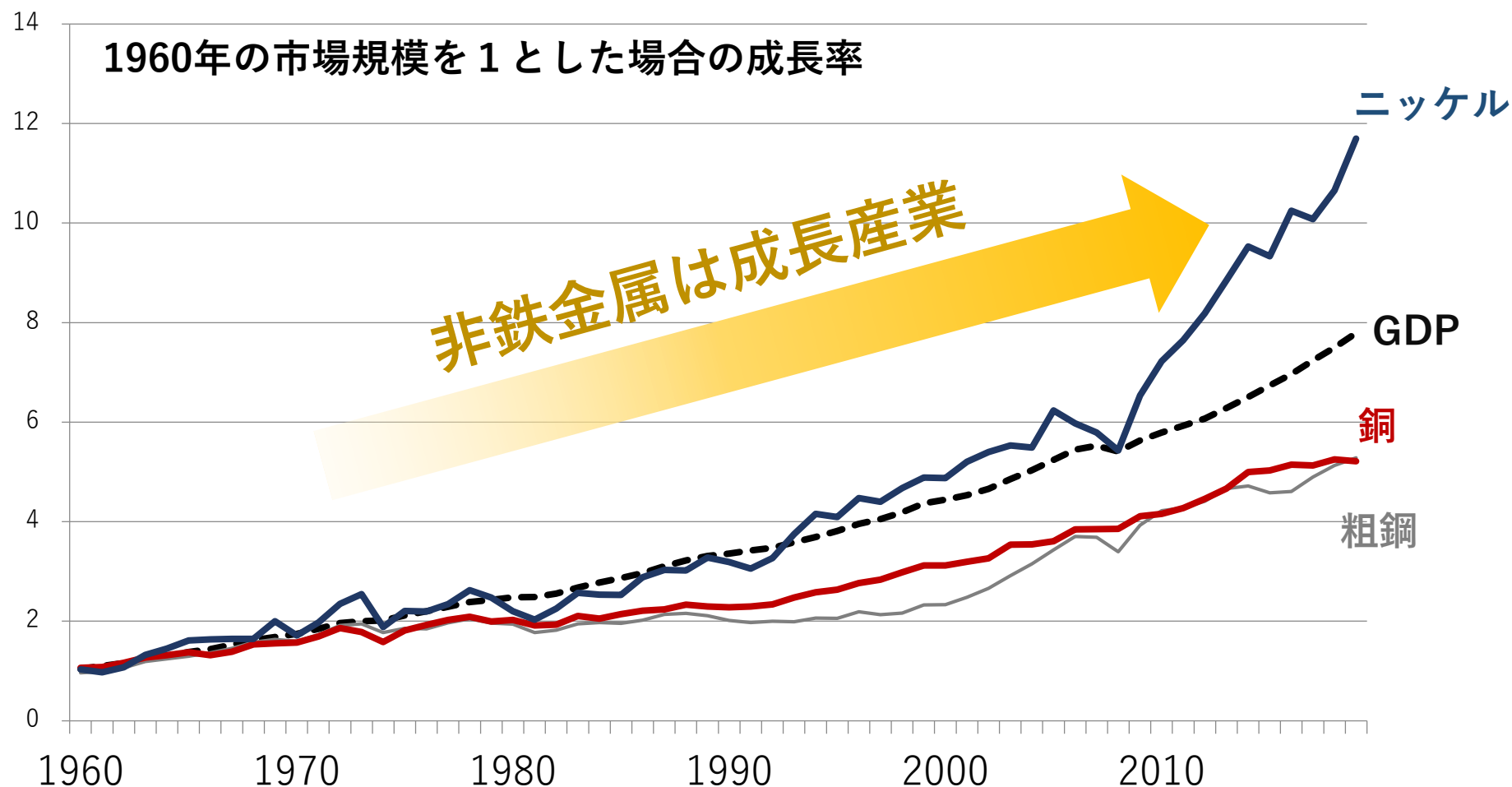


フェロニッケル

非鉄金属市場の規模と成長性

銅の年間市場規模：約2,400万トン

ニッケルの年間市場規模：約240万トン



住友金属鉱山の資源事業のあゆみ

1691年～1973年

別子銅山



1985年～

菱刈鉱山



1986年～

海外鉱山



菱刈鉱山

世界トップレベルの高品位、豊富な埋蔵量を誇る金鉱山
高い収益力で長期安定的に当社経営に貢献

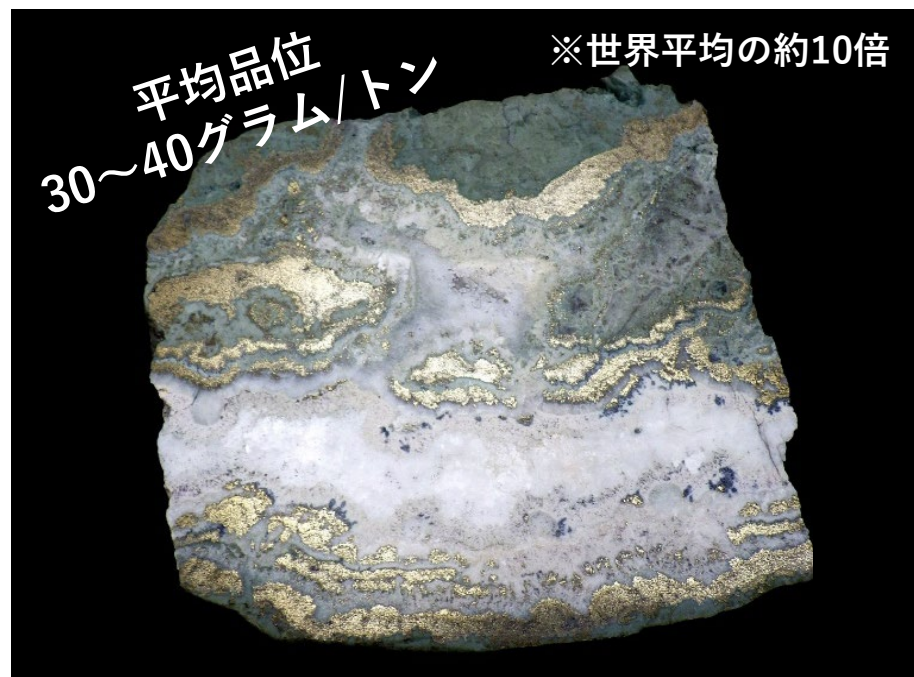


- ・所在地：鹿児島県伊佐市
- ・1985年開山
- ・当社権益比率 100%

豊富な金埋蔵量：163トン

(2019年12月末時点)

Au
金



住友金属鉱山の強み：資源事業

優良資産の保有

海外銅鉱山

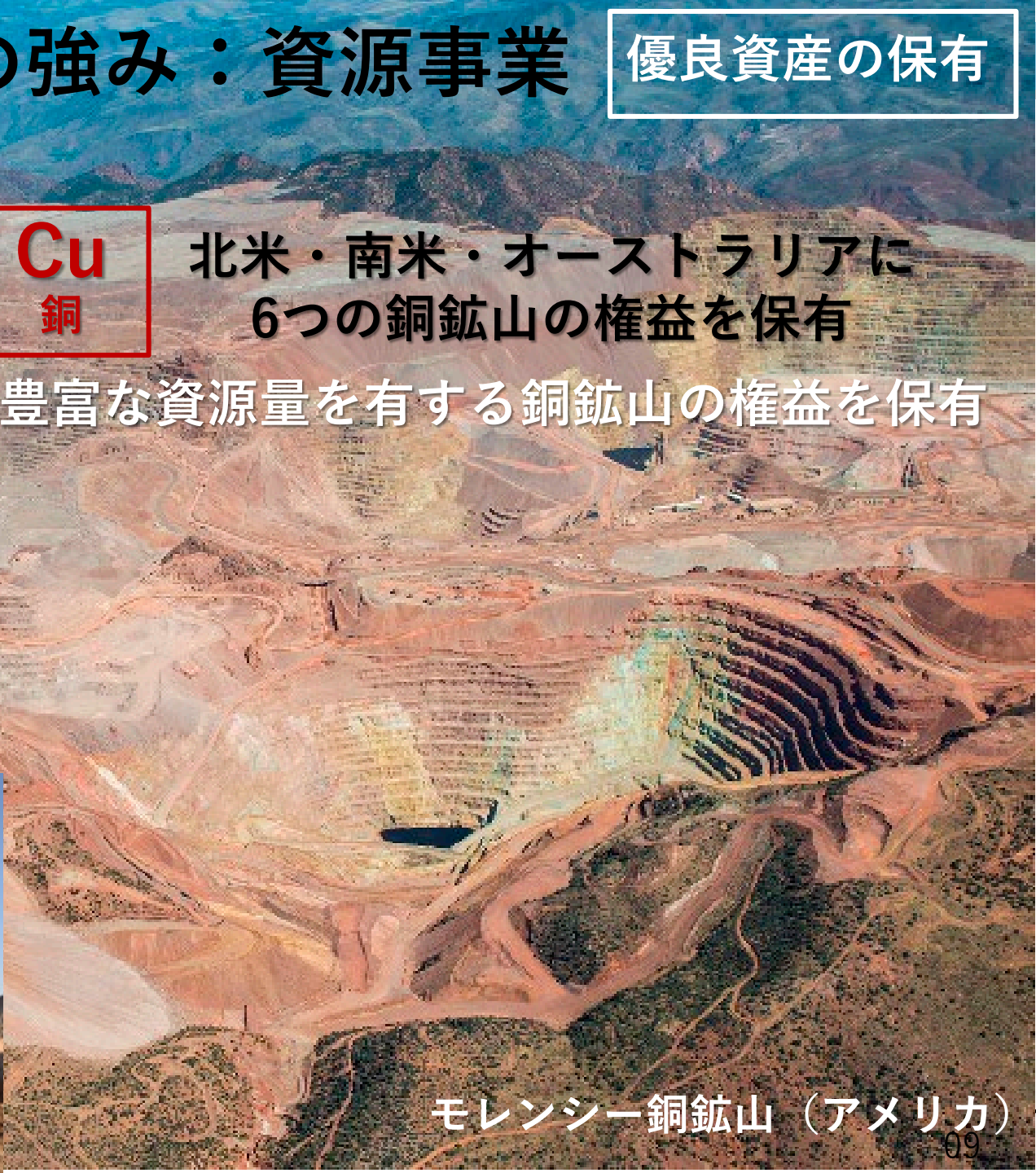
Cu
銅

北米・南米・オーストラリアに
6つの銅鉱山の権益を保有

高いコスト競争力、豊富な資源量を有する銅鉱山の権益を保有



シエラゴルダ銅鉱山（チリ）



モレンシー銅鉱山（アメリカ）

住友金属鉱山の製錬事業のあゆみ

創業

1590年

銅製錬

1939年

ニッケル
製錬

2005年

HPAL

※HPAL : High Pressure Acid Leach 高压硫酸浸出



世界トップクラス

世界最大級の単一自熔炉、
高いコスト競争力を有する銅製錬所

Cu
銅



東予工場（愛媛県）



住友金属鉱山の強み：製錬事業

技術力

Ni
ニッケル

日本で唯一

電気ニッケル/電気コバルトを生産

ニッケル工場（愛媛県）



生産性・コスト競争力の高いMCLE（マット塩素浸出電解採取）法

世界に先駆け
実用化に成功

High Pressure Acid Leach (HPAL)
高圧硫酸浸出

Ni
ニッケル



コーラルベイニッケル社
(フィリピン)



タガニートHPALニッケル社
(フィリピン)

- ・ それまで利用できなかった低品位の酸化鉱からニッケルを回収する技術
- ・ 限りある鉱物資源の活用に貢献

住友金属鉱山の材料事業のあゆみ

1960年代～

電子材料事業
に進出

1990年代～

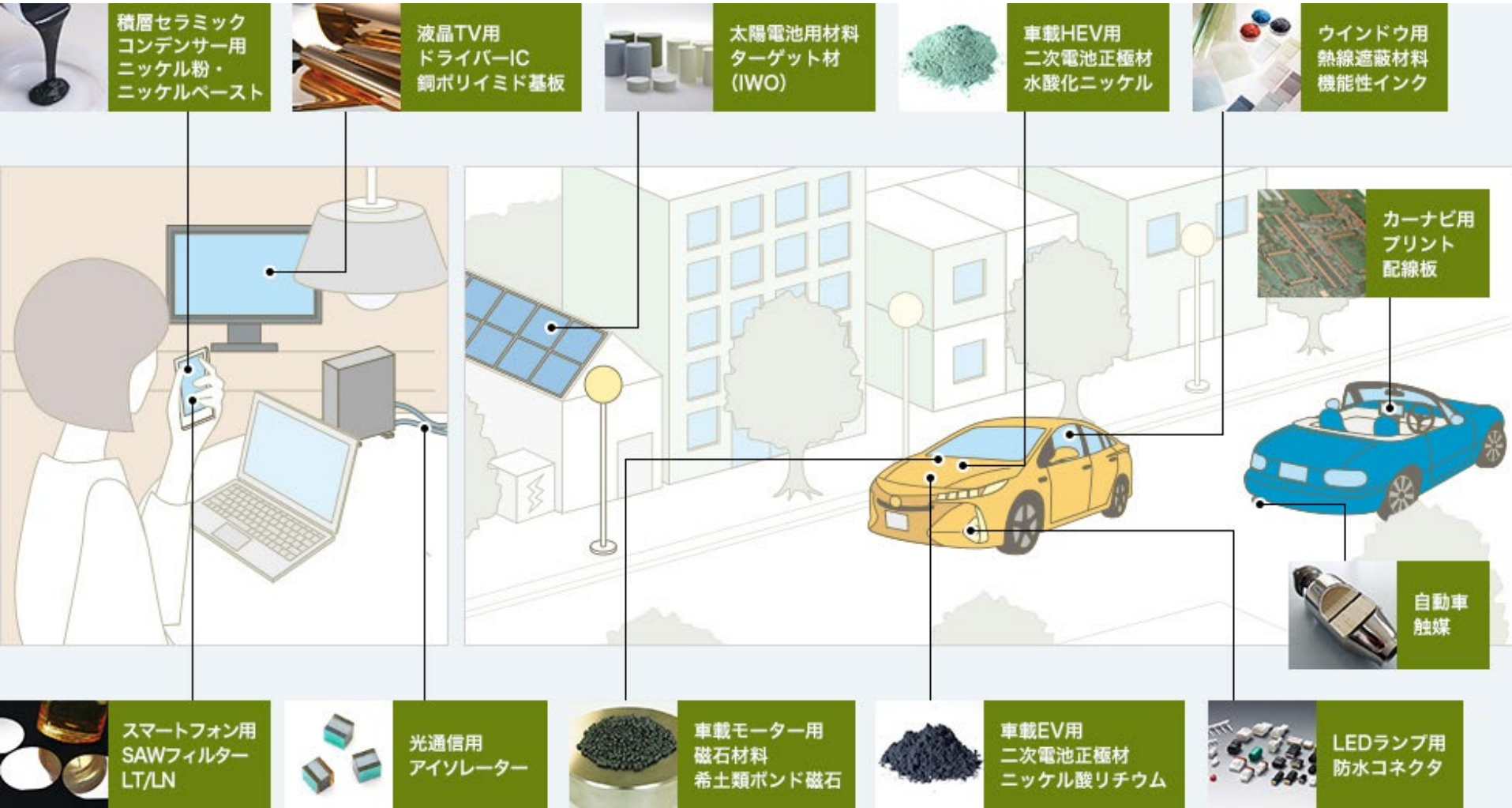
電池材料
生産開始

現在

電池材料
増強中



暮らしを支える住友金属鉱山の材料製品



今後も成長が見込まれる
車載用電池向け正極材のNCAで **世界市場シェアNo.1** (※)



ニッケル酸リチウム (NCA)

ニッケルマンガン
コバルト酸リチウム (NMC)

水酸化ニッケル

リチウムイオン電池

ニッケル水素電池



電気自動車



ハイブリッド自動車

鉱石から電池材料まで
一貫した

自社ニッケルサプライチェーン

鉱石



中間原料



メタル



電池材料



鉱石資源から
原料確保



低品位ニッケル
鉱石をHPAL技術
で製錬



硫酸ニッケル
に加工



正極材
に加工

世界でも類を見ない独自のビジネスモデル

(2019年2月に発表した「2018年中期経営計画」で策定)

「世界の非鉄リーダー」を目指す

〈
タ
ー
ゲ
ツ
ト
〉



ニッケル

生産量
15万トン/年



銅

権益分生産量
30万トン/年



金

優良権益獲得による
鉱山オペレーションへの
新規参画



材料

ポートフォリオ経営による
税引前利益250億円/年の実現

当期利益 1,500億円

3大プロジェクト：2018年中期経営計画

※生産・操業開始予定時期は2020年8月時点のもの

資源 ケブラダ・ブランカ2（QB2）プロジェクト
銅鉱山開発（チリ）

生産開始予定：2022年2Q

生産開始後は銅権益分生産量30万トン/年が視野に

製錬 ポマラプロジェクト

操業開始予定：2020年代半ば

ニッケル製錬所建設（インドネシア）

当社の第3のHPAL製錬所、
ニッケル生産量15万トン/年へ前進

材料 電池増強

2027年までに月産10,000トン体制へ

NCA＋水酸化ニッケル＋NMCでの体制確立へ

CSR：受け継がれる「住友の事業精神」

当社事業の創業以来引き継がれてきた事業精神

〔第1条〕 わが住友の営業は**信用を重んじ、確實を旨とし、**
もってその鞏固隆盛を期すべし

〔第2条〕 わが住友の営業は**時勢の変遷理財の得失を計り、**
弛張興廃することあるべしといえども、
いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

（昭和3年 住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋）

CSR：別子銅山から受け継がれる 住友金属鉱山のCSR



「写真提供：住友史料館」

明治時代、植林前の別子銅山



「写真提供：住友林業株式会社」

現在の別子銅山

このまま別子の山を荒蕪するにまかしておくことは、天地の大道に背くのである。どうにかして濫伐のあとを償ひ、別子全山をあをあをとした姿にして、之を大自然にかへさねばならない。

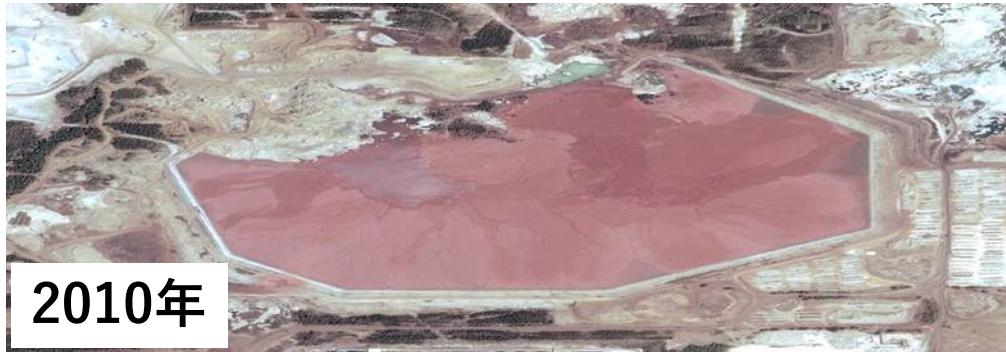
—伊庭貞剛（第二代住友総理事）

CSR：別子銅山の精神を引き継ぐ活動

フィリピンにおける緑化活動 ～尾鉱ダム（※）の環境保全・再生～

※尾鉱ダム：

HPALにおいて有価金属を回収した残渣を無害化し堆積しておく場所



コーラルベイニッケル社（CBNC）
2019年ASEANミネラルアワード
を受賞

CSR：フィリピンでの活動



尾鉱ダムの
リハビリテーション（植栽）
に使う植物の育成



地域住民への
無料診察プログラムを支援



地域の学校運営を支援

CSR：ビジョンや活動

2030年のありたい姿 長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」を実現するための2030年時点でのマイルストーン

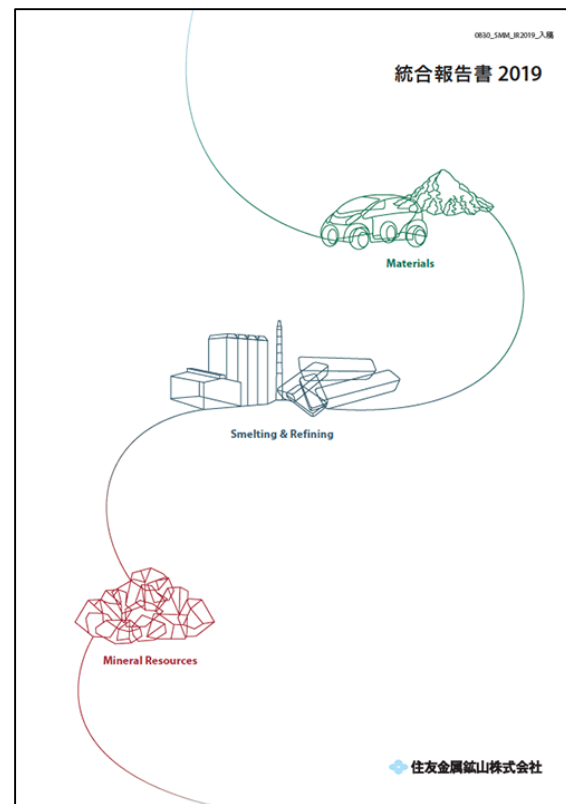


<https://www.smm.co.jp/csr/vision/document/>

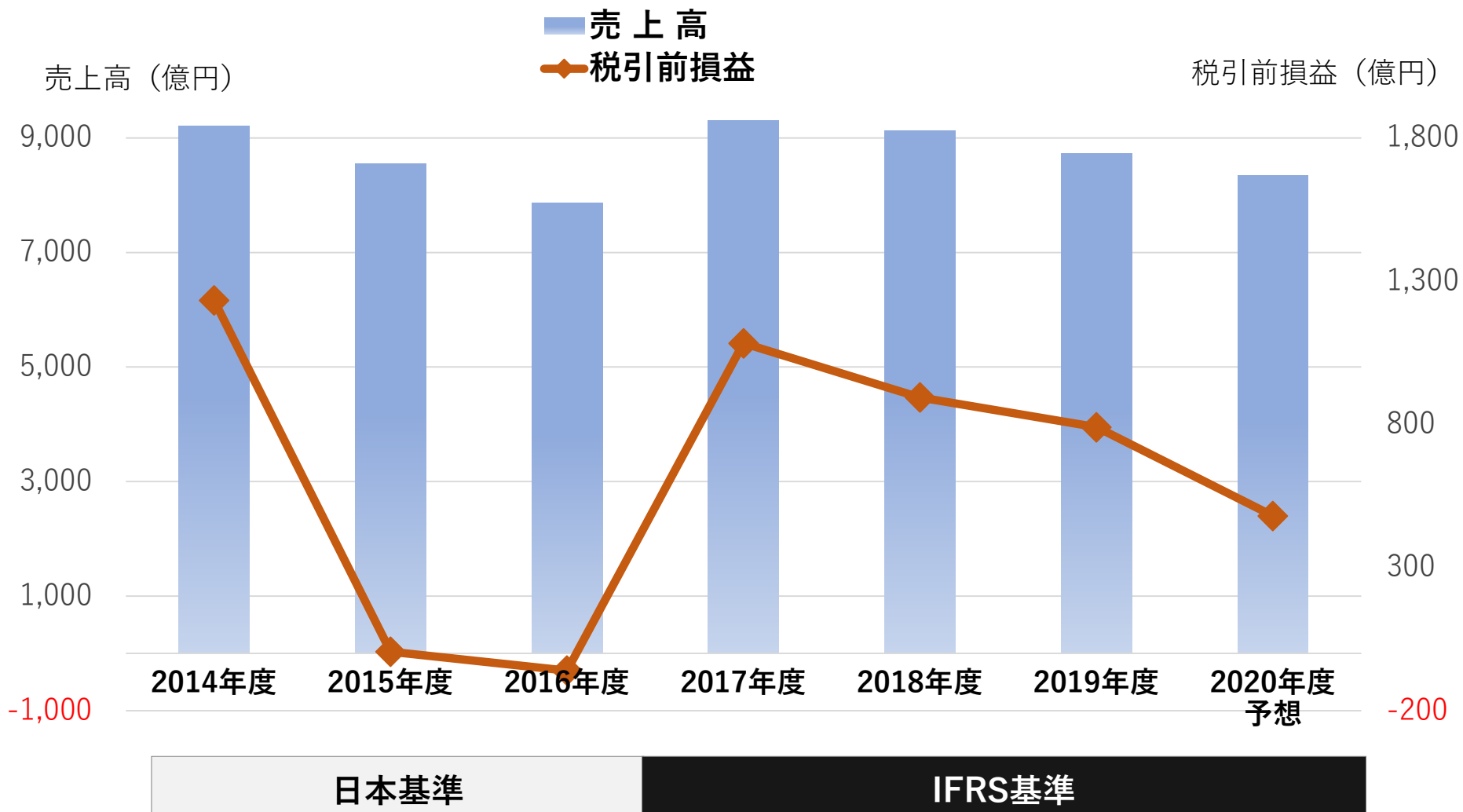
統合報告書

経営ビジョン、事業戦略、CSR活動を詳しくご紹介

<https://www.smm.co.jp/ir/library/annual/>



業績推移



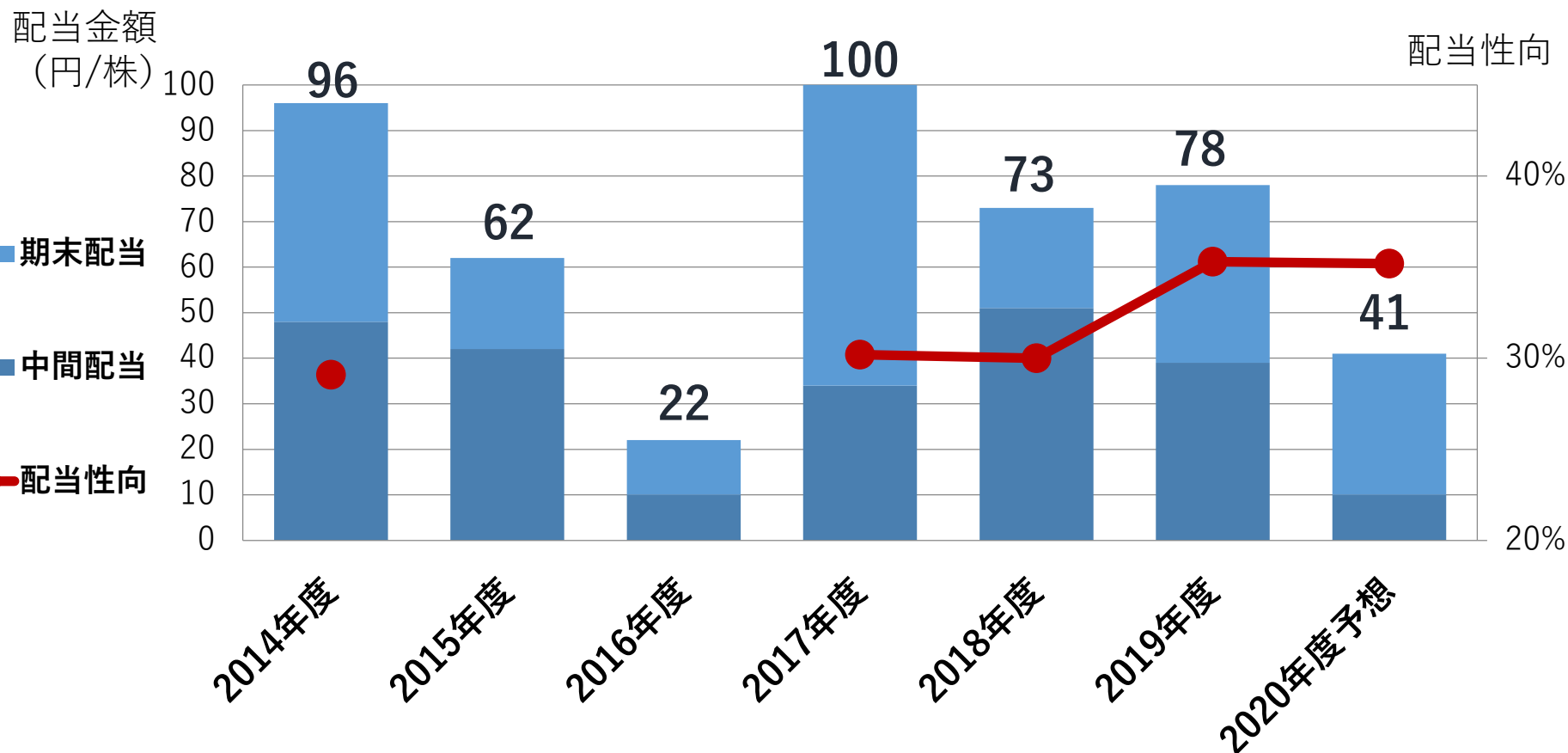
新型コロナウイルスの影響（2020年度）

	これまでの影響	足元の状況、見通し
金属価格	・ 第1四半期の銅・ニッケル価格の下落・低迷 景気への先行き不透明感による ・ 金価格の上昇 安全資産として資金流入	
操業	・ セロベルデ銅鉱山（ペルー） 3/16～保安操業実施による減産 ・ タガニートHPALニッケル社（フィリピン） 3-4月の予定休転期間の一部長期化	・ 5月下旬より操業再開 ・ 当初見込みより早く立ち上がり、5月以降は通常操業を再開・継続
販売	・ 自動車市場向け材料製品の販売減速	・ 下期は自動車需要回復を前提に電池材料はフル生産・販売を見込む
プロジェクト	・ QB2プロジェクト（チリ） 3/19～建設中断	・ 建設サイトへの動員を再開中

配当情報

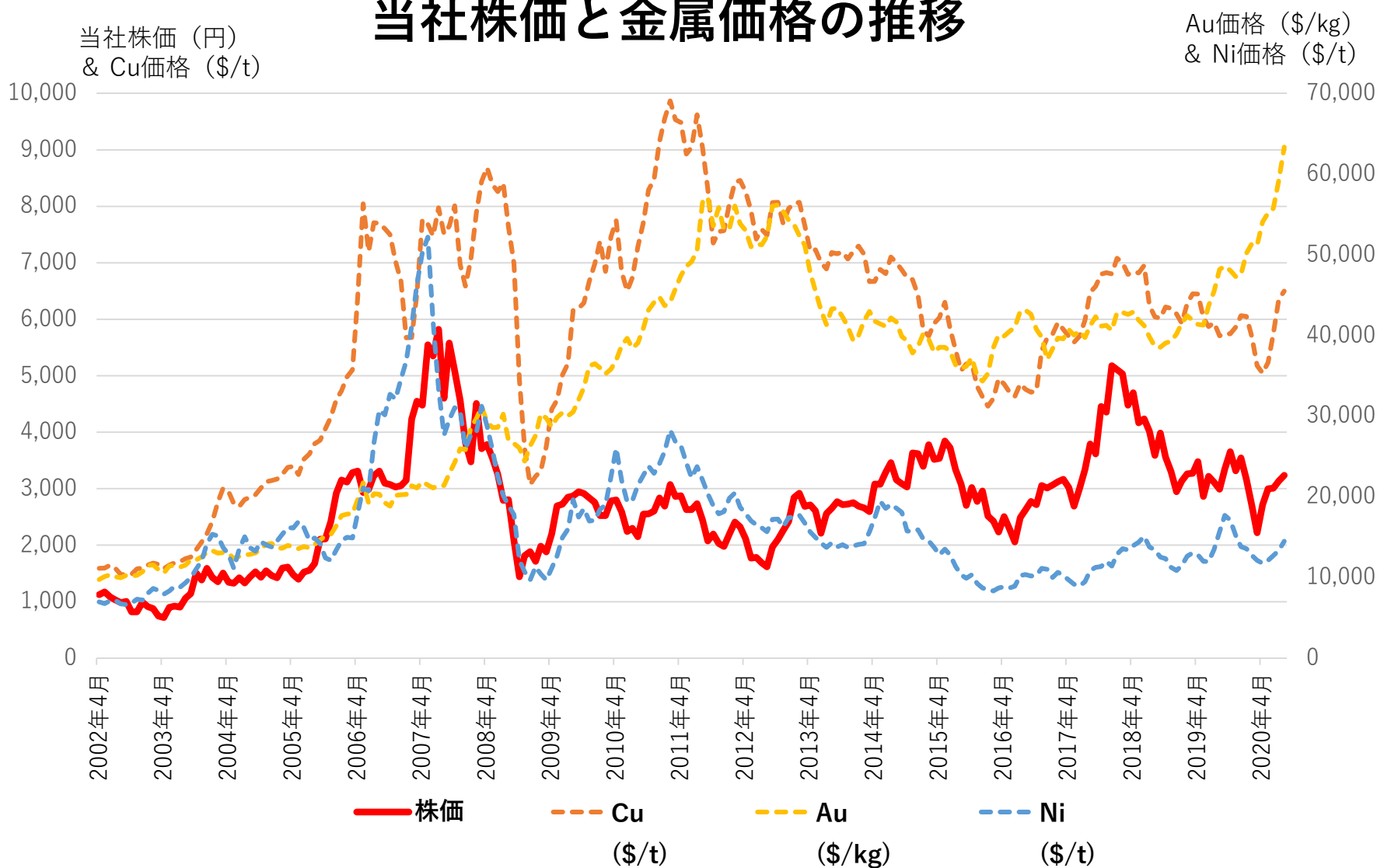
< 配当方針 >

- ・業績連動に基づく配当
- ・連結配当性向は、**35%以上**
(2019年度から従来の30%より引き上げ)



株価推移

当社株価と金属価格の推移



株式情報

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京（東証1部）
業種	非鉄金属
証券コード	5713
株式売買単位	100株
株式の状況	発行可能株式総数：500,000,000株 発行済株式の総数：290,814,015株

株価	3,330円/株（2020年9月1日 終値）
時価総額（※）	9,684億円
配当利回り（※）	1.23%
PBR（※） 株価純資産倍率	0.92倍
PER（※） 株価収益率	28.59倍
EPS（※） 1株当たり当期純利益	116.46円

※業績・配当は、2020年8月発表予想値、株価は2020年9月1日終値に基づき算定



MINING THE FUTURE

【お問合せ先】

広報IR部：03-3436-7705

ウェブサイトお問合せフォーム：<https://www.smm.co.jp/contact/>